

ワシントン・タイムズ：アレックス・ジョーンズの中国脅

威説は正しかった

Infowars 創設者は中国の脅威について世界を警告していた

【訳者注】ワシントン・タイムズは元々、ほとんどが容共のアメリカの主流紙の中で、反共の役割を果たす使命を帯びて発刊された。しかし、共産主義の本家本元が、どこにあるかが、はっきりしないまま、それは出発したように見える。そのためにそれは、父ブッシュ大統領と癒着するという本末転倒をやったと思われる。共産主義の本家は、アメリカを利用している、グローバル・エリートと呼ばれる、国籍を持たない金融権力集団であって、ロシアなどではなかった。それがわかってきて、この新聞は、本来の反共の姿勢を明瞭に示し始めたと思える。アレックス・ジョーンズ擁護のために、これだけ多くの論説を掲げるのは、他の御用新聞に対する宣戦布告のようであり、いずれ、ジョーンズの Infowars と同じ運命が待っているかもしれないが、検閲側も、こんなやり方が長持ちするとは思っていないだろう。

この論文の要点は、米民主党と本質的に同じ、サタンの世界覇権を狙う中国共産党の、アメリカへの用意周到な侵入の恐ろしさである。アメリカは、このしたたかな権謀術数に、やられそうだということらしい。

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

August 15, 2018



アレックス・ジョーンズは、インターネット巨大企業によって沈黙させられた

最近のアレックス・ジョーンズの、主要ネット技術会社によるインターネットからの追放に引き続いて、ワシントン・タイムズは、この Infowars 創始者はずっと正しかった、しかしいま沈黙させられた、と明言している。

アメリカのハイテク会社の独占体制が、彼らの組織からアレックス・ジョーンズの発言の場を取り上げ、彼をその視聴者から効果的に切り離しにかかっているとき、アメリカ人は、この動きの背後にある本当のアジェンダが何であるか、深層を掘り下げて見る必要がある。

このような過激な行動の理由は、単に、検閲の美名になってしまったヘイト・スピーチを禁止するというより、はるかに不気味なものである。

あなたが、ジョーンズのニュース・ブランドのファンであるか否かの問題ではない。問題は、保守側の声が最近のように、引き抜かれることは、ほとんどの人々が理解しているよりも、アメリカと世界にとって、はるかに深刻だということである。



アレックス・ジョーンズは、インターネットからこそげ落とされている

ワシントン・タイムズの L. Todd Wood の記事を以下に引用紹介する：——

<https://www.washingtontimes.com/topics/alex-jones/>

アレックス・ジョーンズがずばり言い当てたことは、中国共産党が、我々の未来と生き方に与える脅威であり、いかにこの脅威が、我々の政府と教育制度とハイテク産業の多くを、墮落させたかということである。

あなたは知っていたらどうか？——Google が、一つの人工知能 (AI) センターを中国に開設し、この重要なテクノロジー分野で、中国がアメリカを追い越すように、計らったことを。

「AI 科学は国境をもたず、その利益も同様だ」と、グーグルの AI ビジネスの主任科学者 Fei-Fei Li は、最近、あるブログ記事の中で言っている。

面白いではないか？

私は、中国が、大防火壁と呼ばれる巨大なインターネット国境をもっていること、そしてそれは市民が、グローバルな真理を知らないようにするものであることを、この主任科学者は知らないのだと思う。

同時にあなたは知っていたらどうか？——グーグルが最近、米防衛省との契約を解消し、更新はしないことにした、その理由は、彼らの技師が防衛省のために、すなわち、アメリカのために働くことを拒否したからだ、ということ。

あなたは知っていたか？——Apple が、インターネットの膨大な、オーウェル流の検閲を行って中国を援助していたことを、すなわち、中国の気に入らないアプリを、その言論の場から消去していたことを。

昨夜、私は、Mark Levin の、フォックス・ニュースの新しい番組を見ることにした。その主題は魅力的だった。

そのゲストは、中国専門家の Michael Pillsbury で、彼は米政府内で多くの省庁のために、数十年働いた経験をもつ。

彼のコメントは、ぞっとするようなものだった。彼は最近、『100 年マラソン』という本を出したばかりだ。

私はこの本をダウンロードし、一晩徹夜して読んだ。ここにその要点をあげておこう：——

間違った思い込み 1：中国と組めば、完全な協力が得られる。——そうはならなかった。アメリカが何十年も中国の発展を助けた結果、彼らはこれまで以上に、我々の生活様式と安全の脅威になっている。

我々と直接、閲覧契約をして、インターネット検閲を避けることだ。

間違った思い込み 2：中国は民主主義への途上にある。——そんなことはない。彼らは純粹

な全体主義国家で、アメリカを支配しようとしている。

間違っただ思い込み 3：中国は壊れやすい強国である。——そんなことはない。これは彼らの本当の狙いについて、西側を眠らせておいて、手遅れにさせる、中国の古来の戦略（孫氏の兵法？）に従った姦計である。

間違っただ思い込み 4：中国は我々のようになりたがり、現にそうになっている。——いやいや。中国は今でも敵意をもった敵であり、我々が彼らの力に屈することを狙っている。そのとき初めて、彼らの経済は我々をはるかに凌駕する。彼らは、征服という彼らの真の目標に気づかれないように、欺瞞や逃げ口上を用いる。

間違っただ思い込み 5：中国のタカ派は中国内部では弱い。——それどころか、彼らは政策決定を支配し、アメリカに対して敵意をもっている。

私は、あらゆる人々がこの本を読むことをすすめる。それは目を開かせ、夜も寝られなくなるだろう——真理が常にそうであるように。



アレックス・ジョーンズは、中国について、ずっと正しかったのだろうか？

ここで、アレックス・ジョーンズの言論の場からの追放は、完全につじつまが合う。

私は、北京（政府）と我々の技術巨人たちとのやり取りを、想像することができる——「アレックス・ジョーンズを始末せよ、さもないと…（どうなるかわかっているな）」

そして、我々のメディアから、ハリウッドから、民主党から、学界等から発せられる、反ト

ランプ・レトリックについてはどうか？

それらはすべて、Chicom (Chinese communists、中国共産党) によって買収され、支払われている。

ビル・クリントンが、(ホワイトハウスの) リンカン・ベッドルームを中国人に貸していたことを、覚えておられるだろうか？

ほとんどのハリウッドのスタジオは、今、中国人が所有しており、アメリカの民衆が何を見るべきかを指令している。

あなたは、30万人の中国人学生が、いまアメリカにいて、彼らの調査結果や、特許権や、知的財産のすべてを、本国の中国共産党へ送っていることを知っていたか？

彼らは、我々の政府に、学校に、メディアに、娯楽産業に、我々のテクノロジーに、深く入り込んでいる。

これは実に恐ろしい問題だ。

結局のところ、民主党は左翼であって、社会主義は共産主義だと言ってよい。

アメリカ全土で爆発している、こうした社会主義プロパガンダを資金援助しているのは誰か？ それは中国である。

我々の100以上の大学にある「孔子センター」は、大学や学問のあり方を支配している。

もちろん、マルクス主義者は、ドナルド・トランプが権力に就いていることを望んでいない。

彼は、彼らが憎むすべてを代表している——自由、法の原則、アメリカ建国者たちの価値、自由市場資本主義。

我々は実に、我々の共和国にとって危険な時期に生きている。

——以下、数十行略